



BBC通信

《ぶどうの家 BRANCH コミュニティ通信》

第22号 (2022年6月10日)

この通信は、「ぶどうの家 BRANCH」に集う人、地域の人、支える人、関わる人、など、広く人々を繋ぐものです。情報共有、近況報告、対話、学び、ふれあいの場です。

特別寄稿

西日本豪雨から思う・・・あれから4年(上)

ぶどうの家 代表 津田 由起子

2018年7月6日午後9時頃、私たちは大した恐怖感も持たず「小規模多機能ホームぶどうの家真備」を出て家路につきました。その深夜、異様な携帯アラームとアルミ工場の爆発音で、初めて「ただ事ではない」と恐怖を覚えました。

夜明けを待って箭田のクリーンセンターに向かい、そこで目にした光景は私の知っている真備町とは一変していました。

あの日を境に私たちの事業所も生活も、景色と同様に一変しました。3日後にやっと水が引き、ぶどうの家に行くことができましたが、全てが泥の中で「全部ごみになってしまった」と一瞬で理解しました。

私たちは、自宅から助け出されたご利用者さんたちと、菌公民館分館で過ごすことになりました。水島や町内などに避難していた方も次々に集まり、分館の一室はミニぶどうの家のようなものでした。そこに、ご利用者でない避難所で困っている方も受け入れて介護していました。ワイワイといつものぶどうの家のようにもありました。

しかし、菌地区住民の方々が親身になって助けてくださったこと、自らも被災したり道路が通れず出勤できない職員が半数以上だったことは、通常とは全く異なっていました。

このような状況の中でも一日も止まることなく事業継続ができたのは、目の前に利用者さんやご家族がいてくださったこと、「理念の実現のために動く」と言ってくれる職員たちがいてくれたこと、これまでのつながりで県内外の仲間が支援してくれたことが大きかったと思います。

福祉的設備はほぼありませんでしたが、ある物を工夫して過ごしやすい空間を作っていました。在宅を熟知している介護職員の知恵と経験は素晴らしいと思いました。そして、共に過ごしたご利用者はどんどん元気になって、被災地の要介

護状態の人はもっと悪くなるという常識を打ち破ることになりました。

私たちは菌で4ヶ月を過ごし、辻田の「ぶどうの家ランチ」に移ることになります。被災した倉庫を、支援を受けて改修し、風呂や台所などをつけ、やっと通常のぶどうの家に近づくことが出来て、ほっとしたことを思い出します。

ランチを地域の方々のコミュニティ再生の場にするので、お世話になった恩返しになればとの想いから、その後、ここでいろいろな活動が行われていきます。

被災から8か月後、元の場所に「ぶどうの家真備」事業所を建て直し、戻ることができました。「一日でも早く」との思いでしたが、箭田に戻った時、夜になるとまだまだ周囲は真っ暗で、素早く戻れたことを実感し、たくさんの方々のつながりの中で応援してくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいでした。〈次号へ続く〉

ぶどうの家 BRANCH の イベント案内

▼毎週木曜日

10:00 体操教室、《しゃべり場》

▼第4木曜日 10:45~11:30(変更することあり)

老い支度勉強会

6/23⇒「食べられなくなったら寿命ですか？」

7/28⇒「あなたは、どこで、死を迎えたいですか？」

▼第3木曜日 13:30~15:00(変更することあり)

パソコン教室・・・インターネットにチャレンジ

6/16、7/21

▼第1木曜日 13:30~15:00

スマホ井戸端サロン

7/7⇒スマホで使えるネットショッピングについて

▼お買い物ツアー

7/8 呉妹・服部・箭田地区

8/12 川辺・二万・箭田地区

9/9 岡田・菌地区

※他地区からの参加も可

「互近助」「フードパントリー」休止のお知らせ

スーパーなどの「フードロス」削減の取り組みに、ぶどうの家 BRANCH も参加してきました。ところが、Hスーパーの供給量が大きく減って、事業の継続が困難な状況となりました。そこで、残念ながら、いったん休止することにいたしました。▼今後は、「フードパントリー」「フードバンク」「フードドライブ」などの活動を行っている団体などと連携して、新たな取り組みを進めてまいります。

【問合せ・申込・連絡先】

ぶどうの家 BRANCH (ランチ)

086-697-5255 (津田・西澤・山形・杉原)

090-5366-1497 (林)

〒710-1312 倉敷市真備町辻田 197

budo.care@gmail.com

